
リハビリテーション天草病院だより

2021年4月

No. 98



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

当院が目指すべき“3早”

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

最近発行された回復期リハビリ病棟協会の機関誌では、「早く受け入れ、早くよくして、早く地域へ」という“3早”をテーマに特集が組まれました。“3早”は、急性期病院からなるべく早く患者を受け入れ、短期間に集中的なりハビリを提供して機能改善を図り、なるべく早く地域へ帰そうという全国的な取り組みとなっています。

今号では、回復期リハビリ病院の全国平均と比較しながら、当院における“3早”の状況についてご紹介したいと思います。

まずは、“3早”の1つ目である「早く受け入れる」です。これは、発症してから回復期リハビリ病院へ転院してくるまでの日数を短くするということですが、当院は全国平均より8日以上長い結果となっています。少しでも早く入院して頂くために、病床数を増やすなどの対策を行ってきましたが、増床数以上に入院希望を多く頂いていまして、申し込みから入院まで2週間程度お待ち頂かなければならない現状にあります。

次に、“3早”の2つ目である「早くよくする」ですが、これは、入院上限日数に対するADL改善度を示す「実績指数」という指標が参考になります。最もランクの高い入院料1の基準が実績指数40以上に設定されていますが、全国平均の42に対し、当院は直近のデータで55と13ポイント高い結果となっています。当院は、入院日数に対する機能回復の度合いが大きいといえます。

最後に、“3早”の3つ目である「早く地域

へ」ですが、これは「入院日数」と「在宅復帰率」という指標でみることができます。入院日数は全国平均より7日長いのですが、在宅復帰率は全国平均より3%高いという結果になっています。当院は、入院日数が長めですが、しっかりと地域へ帰しているということがいえます。

以上のことから、“3早”の視点で見れば、当院はまだまでの状況にあるといえますが、闇雲に何でも早くすれば良いという訳にはいかない事情があります。

急性期治療に時間がかかる重症例を避け、リスクを承知で急性期中の患者を優先的に受け入れ、短期間集中的にリハビリを行い、回復期中であっても早めに自宅や居宅施設へ退院させるということをするれば、“3早”が促進されることは分かっています。しかし、それでは当院の運営基本理念から遠のく結果を招きかねません。

当院は、「重症患者であってもしっかり受け入れ、個々の状態に合わせてしっかり時間をかけて良くし、リハビリを仕上げからしっかり地域へ帰っていただく」という“3しっかり”を守りながら、“3早”を目指していきたいと考えています。

運営基本理念

患者さんに、安心、安全、満足を提供し
誰からも愛される病院を創造する

SSNと回復期リハビリ病院との連携

リハビリテーション天草病院 総合相談部室長 小玉 康平

埼玉県では、2018年1月より埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク（Saitama Stroke Network、以下、SSN）の運用が開始されました。

SSNとは、脳梗塞を発症した患者さんを消防機関と医療機関が連携し、迅速・円滑に医療機関に搬送し、治療するための仕組みで、埼玉県独自のシステムになります。

脳梗塞治療は、発症後できるだけ早期に患者さんが医療機関に搬送され、治療が開始されることによって予後が大きく変わります。受け入れ可能なSSN参加医療機関を消防機関である救急隊が把握し、短時間で搬送する仕組み作りが始まり、患者さんを迅速・円滑に受け入れることができるようになってきています。

当院がある埼玉県の東部地域の患者さんの主な搬送先であり、SSN参加医療機関は次の表のとおりとなっています。

【埼玉県東部 SSN参加医療機関】

埼玉県東部	SSN参加医療機関
	新久喜総合病院
	東埼玉総合病院
	済生会栗橋病院
	秀和総合病院
	獨協医科大学埼玉医療センター
	越谷市立病院
	草加市立病院
	春日部市立医療センター
	春日部中央総合病院

SSN参加医療機関が救急を断らず、常に受け入れができる為には、回復期リハビリテーション病院が早期に患者さんの受け入れをし、SSN参加医療機関のベッドに空きができるように努めていかなければなりません。

埼玉県の東部地域には、当院を含め16の回復期リハビリテーション病院があり、SSN参加医療機関からの受け入れをスムーズにできるよう顔の見える関係づくりに努めています。早期転院を可能とする為に獨協医科大学埼玉医療センターでは、週に1度、地域の病院や施設のスタッフとのテレビカンファレンスも行われています。

受け入れにあたっての各医療機関との細かいやりとりには、まだまだ多くの課題もありますが、SSN参加医療機関が救急を断らず、治療ができるように当院もスムーズな受け入れ体制を築けるように努めています。

【当院近隣の回復期リハビリ病院】

埼玉県東部	回復期リハビリ病院（リハ病床数）
	春日部厚生病院(74床)
	リハビリテーション天草病院(175床)
	新越谷病院(46床)
	吉川中央総合病院(54床)
	埼玉みさと総合リハビリテーション病院(175床)
	みさと協立病院(42床)
	三郷中央総合病院(58床)

※紙面の都合上、当院近隣の回復期リハビリ病院のみの表となっています。

「あまくさで」

春日部市 渡邊 大介

「あまくさで」。気付くと私はそう言っていた。ほぼ無意識に。越谷市立病院のSCUのベッドの上で。医者と家族が少し驚いた様な表情で私の方を見ていた。「では、あまくさで」。家族が医者にそう伝えた。医者は、その後、一応決まりなのだろう。他にも複数のリハビリ病院に転院が可能であることを説明していた。が、結局は私の意思で、「あまくさ」になった。

リハビリテーション天草病院。通称「あまくさ」。近所に昔からあるリハビリテーション病院である。私の親戚や知り合いの多くがこの病院にお世話になったことがあって「もし自分にリハビリが必要になった時は天草病院以外には無いな」と漠然と考えていた。そうして、幸か不幸か、令和2年10月2日、天草病院にお世話になることになった。

時は少し遡るが、令和2年9月20日、私は「延髄部の脳幹出血：脳卒中」に見舞われた。救急搬送先は越谷市立病院だった。後から知ったが、最初の診断の時、長年看護師として勤めてきた母は、私の予後を察知し、色々と準備をしようと考えたそう。だが、この時、母が予見した私の予後はこの後大きく裏切られることになるのである。そう、我らが天草病院の大活躍のお陰で。

天草病院に入院する前に確認された後遺症は、脳卒中に代表的な症状ほぼ全てを抱えていた。身体の半分が動きにくい、複視（ものが二重に見える）、呂律が回らなくて何を言っているのか分かり難い等々。幸いなことに嚥下障害は認められなかった。

天草病院でのリハビリとその回復ぶりは凄まじく、家族には夢見心地だったようだ。入院から1週間もせずに車椅子から脱し、自立歩行が可能になった。2週間目には入院階（4階）のチーム内フリーになり複視も少し回復、3日目には階段も含めて院内フリーになった。脳卒中で倒れた人間が、いくら若いとは言っても入院からたった数週間で車椅子が不要になり、自立歩行し、箸を使って食事ができ入浴介助不要、オムツや排泄補助も不要で完全に自立した生活をしているのである。家族は、特に脳幹出血のことをネットで調べ尽くしていた妻は「奇跡」と喜んでいて。だが、私はそれが不満だった（妻には大変申し訳なく思うが・・・）。脳卒中になってしまったこと。これはどうしようもない。これをとやかく言うつもりはない。だが、リハビリを通して得られた回復した内容は奇跡なんかではない。リハビリ担当者やその担当者を支えてくれた同僚のリハビリスタッフが、私と真摯に向き合い、私が求める「リハビリで回復した自分の姿」を共に考えてくれたからこそ実現できたことだと思っている。まさにチーム医療とは何か？をまざまざと見せつけられたような感じだった。

当然この先生たちとのリハビリはとてもきつかった。リハビリの度に自分が出来ないことを認識させられ、どこを鍛えないといけないか？を指摘される。その為、リハビリが終わった後は、毎日毎夜毎晩、指摘された箇所とその周辺の筋肉を自主練で鍛えていく必要がある。毎日である。天草のリハビリには休日がない。文字通り、毎日リハビリなのだ。だが、そのお陰だろう。入院から1ヶ月もしないのに、看護師さんや他の患者さんの反応からも感じる「いつ退院でもおかしくない」という雰囲気。私は間もなく退院する身であるが、退院後に親戚や知り合いに会ったら私

の経験談も踏まえて、迷うことなくこう言うだろう。「もし何かあってリハビリが必要なら、あまくさで診てもらおうと良いよ」と。

（投稿日 令和2年11月3日）

「リハビリテーション 天草病院への転院」

草加市 土田 孝弘

年の瀬に突然、右手・右足が動きづらくなり異変を感じ、急性期病院の救急で診察してもらいました。そこで告げられたことは脳梗塞ということでした。突然のことで大好きなゴルフや仕事等が出来るようになるのだろうかなどと不安で一杯になりました。ただ、「治すのだ」という気持ちはあったものの、「本当に社会復帰できるのだろうか」と半信半疑な思いを抱えて治療に専念していきました。そして急性期病院の入院生活も2週間が過ぎ、リハビリ病院へ転院をすることが決まり、そこがリハビリテーション天草病院でした。

そもそも天草病院を選んだのは、休日もなくリハビリをしてくれて早く退院出来れば良いということだけで決め、不安を抱えながらも単にリハビリがどんどん出来て、リハビリって自分次第だろうっていう気持ちで転院してきました。

入院してみると担当の先生、看護師の皆さん、介護スタッフの皆さん、リハビリの先生方の全員が親しみやすく、リハビリだけではなく持病に関しても親身になって意見をくれたりして、新型コロナの影響で家族との面会は出来ませんでした。不安や寂しさを感じさせることなく、身構えていた自分をリラックスさせてくれました。

リハビリが進んでいくにつれて、上手く出来ることもあれば何回やっても上手く出来な

いこともあり、上手く出来ないことが続くと社会復帰が難しいのではないかと落ち込む日もありました。そんな時に、リハビリの先生方のアドバイスや励ましを頂き、看護師さんたちからも色々とお声をかけてもらい本当に助けられました。それでリハビリの練習を続けていく活力をもらい一生懸命、練習に励むことが出来ました。本当に感謝しています。特に看護師さん、リハビリの先生方とは面白可笑しく話をしたりして心が和み気晴らしになりました。

今では皆さんのお陰で装具は付けたままですが、病院内は自由に歩くことができ、お風呂も一人で入り、ゆっくりすることも出来るようになってきています。社会復帰までにはまだリハビリ生活は続くと思いますが、私の仕事はITなのでマウスが使えるまで頑張ろうと思っています。リハビリテーション天草病院に入院して、リハビリをさせて頂いたことは本当に身も心もリハビリができたと思っています。

先生方、看護師さん、介護スタッフの皆さん、リハビリの先生方にはこれからもご迷惑をお掛けするかもしれませんが引き続き宜しくお願い致します。

最後に、入院が終わり完全に社会復帰した姿をお見せして退院することが皆さんへの恩返しじゃないかと考えています。

（投稿日 令和3年2月11日）

感謝の声（投書箱より）

大変、お世話になりました。車椅子の状態から2kmも歩けるようになり、動かなかった右手も箸を利用して食事が摂れるまでになりました。字も書けるようになり感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。（A病棟 入院患者様より）

院内の「人・施設・設備」ご紹介

2021

本年度リハビリ新入職員ご紹介

2021 年度に当院に入職したリハビリテーション部職員をご紹介致します。
 当院の未来を担っていく人材なので、是非厳しくも温かいご支援お願い致します。

P T 理学療法士	 氏名(年齢)：宇田川 彬 (22 才) 血液型：AB 出身地：埼玉県 座右の銘：日進月歩 何か一言：C 棟に配属となりました宇田川です。宜しくお願いします。
	 氏名(年齢)：中田 未来 (22 才) 血液型：A 出身地：東京都 座右の銘：石橋を叩いて渡る 何か一言：頑張ります。
	 氏名(年齢)：中尾 幸暉 (22 才) 血液型：A 出身地：三重県 座右の銘：結縁 尊縁 随縁 何か一言：精一杯頑張りますので宜しくお願いします。
	 氏名(年齢)：菅野 真季 (22 才) 血液型：A 出身地：埼玉県 座右の銘：Today is my day 何か一言：一生懸命頑張ります。宜しくお願い致します。
O T 作業療法士	 氏名(年齢)：岩永 由香 (24 才) 血液型：A 出身地：沖縄県 座右の銘：有言実行 何か一言：電車の乗り方教えて下さい。今日からご指導お願い致します。
	 氏名(年齢)：上田 寛人 (22 才) 血液型：O 出身地：兵庫県 座右の銘：凡事徹底 何か一言：宜しくお願い致します。
	 氏名(年齢)：古市 理菜 (22 才) 血液型：O 出身地：埼玉県 座右の銘：継続は力なり 何か一言：笑顔を絶やさず頑張ります。宜しくお願い致します。
S T 言語聴覚士	 氏名(年齢)：近藤 真理亜 (25 才) 血液型：A 出身地：東京都 座右の銘：一期一会 何か一言：一生懸命に頑張ります。宜しくお願いします。
	 氏名(年齢)：石川 慶一 (22 才) 血液型：AB 出身地：東京都 座右の銘：継続は力なり 何か一言：一日一日を大切に頑張っています。宜しくお願いします。
	 氏名(年齢)：樋口 ななえ (22 才) 血液型：O 出身地：新潟県 座右の銘：聞くは一時の恥 聞かぬは一生の恥 何か一言：分からないことが多いですが宜しくお願いします。
	 氏名(年齢)：高橋 千晶 (22 才) 血液型：A 出身地：埼玉県 座右の銘：為せば成る!! 何か一言：音楽が大好きです。明るく笑顔で頑張ります。

コロナ禍における通所リハビリテーション

介護老人保健施設シルバーケア敬愛 副施設長・通所部部长 和田 幸二

皆様、コロナ禍の中、当施設の通所リハビリ・介護予防通所リハビリをご利用頂き大変心強く思っております。

昨年より広まった、新型コロナウイルスにより、私達の仕事内容は感染予防に向け大きく変わりました。

施設内には感染対策委員会がありますのでリハビリテーション天草病院と連携して、対策を検討し実施しています。対策内容は以下の通りです。

*施設の2階・3階は、入所の方専用になっておりますので通所利用者との接触を回避するため移動エリアの限定や個別リハビリ実施のセラピスト(18名)の入所、通所担当を完全に分離。

*換気対策

- ・定期的に窓を開閉して外の空気を取り込み十分な換気に留意。
- ・窓の無い所は扇風機を設置。

*消毒

- ・手指消毒は送迎車両の乗車時や各ホールで午前・午後各1回実施。
- ・各コーナーに消毒用のボトルを設置。
- ・廊下やホール内・車両の内部等を消毒。

*飛沫感染対策

- ・マスク着用の徹底では、職員は不織布に限定対応へ、各利用者様へは着用徹底。
- ・カラオケ、合唱等の活動中止。
- ・各テーブルにアクリル板の設置。
- ・各職員はフェイスガードの着用対応。

*検温

- ・自宅での検温を徹底実施へご家族様に依頼。
- ・送迎車両の乗車時に検温を追加実施。
- ・施設へ入る時にサーマルカメラによる自動検温も追加実施。

いずれも、発熱(37.0℃以上)が確認された場合は、利用不可となります。

また、利用者様ご家族の方・職員やその家族で発熱があった場合は、敬愛会全体で状況を精査して対応しております。

再開時には看護師により体調確認も行い、安心して、利用して頂ける環境作りを進めております。

昨年からマスクの着用や手指消毒の徹底により、インフルエンザの流行が無くなりました。このような対応やワクチンの接種等も進み、いずれ新型コロナウイルスも同様な時が来ると信じています。

これからも、皆様や施設が一体となり乗り越えて行こうと思います。

より一層のご理解ご協力をお願い致します。

◎新たな取り組みとして、令和2年4月より介護予防の時短(2~3時間)を木曜日限定でスタートしました(桜井地区対象)。その後エリアを新方地区・大沢地区にも拡大をしましたが令和3年3月末には、利用枠がいっぱいとなり、今後は土曜日枠を新設し受入をしていきますのでよろしくお願い致します。

編 集 手 帳

＊新型コロナウイルス感染症が第4波の入り口にあるとは言え、感染を抑えて円滑にワクチン接種を進めることで、収束に向けての新たな対策のステージに入る希望が持てるようになりました。それにしても我が国の現時点における接種率の低さは先進国の中で最低の部類に入ります。ワクチンの輸入調達がうまくいかないからです。

＊なぜ日本は独自で国産のワクチン開発ができなかったのかという屈辱的な声も多く聞こえてきます。超軍事大国である米国、中国、ロシアでは、独自製造が盛んに行われています。軍事大国だけではなく世界の主だった国ではウイルス研究やワクチン研究が安全保障上極めて重要な位置づけになっており、自国民の健康と命を守る要として多額の予算を投

入しています。先進諸外国では、自国を「ウイルス攻撃」から守るという意識が私達には想像がつかないほど強いと言います。やはり日本では何でも「軍事研究」につながりかねないものには反対するという「平和ボケ」があるのでしょうか。

＊「ウイルス問題」を国の安全保障の一環として、その深層まで議論しなくてはならないにもかかわらず、厚生労働省の役人が大失態をしでかしました。国民には強く「夜の街での自粛」を要請しながら、大人数で深夜近くまで送別会を開いて10人以上の新型コロナウイルス感染症を出してしまったことが明らかになりました。万死に値します。批判の言葉すら見つかりません。国の根幹を支え、国の行く末を国民の立場で立案する「役人改造」が先決です。一刻の猶予もありません。

(理事長 天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得しています。

なお、併設の老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

この作品は、満開の桜をイメージしてA病棟の患者様と一緒に制作しました。フラワーペーパーでお花を作り、1本1本生け花のように挿してあります。「心が浄化されるわ」と表情明るく、お話しされている患者様もいました。感染対策のため、密になって作業が出来ない状況でしたが、少しの時間の中でも春を感じながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。作品はAチームに飾らせて頂いております。

(A病棟スタッフより)